

2021 年度 事業計画書

(2021 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日まで)

学校法人 明星学苑

目次

はじめに

I. 明星学苑の建学の精神とその実現

II. 明星学苑全体の事業計画の概要

1. 学苑全体の基本方針
2. 重点事業項目
3. 学苑組織図

III. 当該年度の各部門の事業計画の概要

1. 明星大学・大学院
2. 府中校
 - ・明星中学校・高等学校
 - ・明星小学校
 - ・明星幼稚園

IV. 2021 年度予算の概要

参考資料

- 別表 1. 資金収支予算書
- 別表 2. 事業活動収支予算書

はじめに

日頃より、学校法人明星学苑の教育活動に多大なご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。
「2021年度 明星学苑事業計画書」が完成しましたので公開いたします。

学校法人明星学苑は、1923（大正12）年、建学の精神「和の精神のもと、世界に貢献する人を育成する」ことを目的として、明星実務学校を創立しました。学苑の進展に伴い、幼稚園、小学校、中学校・高等学校、および大学を擁する総合学園として発展し、様々なステークホルダーに支えされながら、これまで延べ10万人を超える卒業生を輩出してきました。



外部環境がめまぐるしく変化する中、予測困難な時代に内外で活躍できる人材の育成を目指し、経営と教学が一体となって建学の精神を具現化する活動を継続して参ります。

学苑の「中期経営計画（2018-2022）」では、「Meisei Next100」を掲げ、創立100周年を迎える2023年、さらにその後の100年に亘って学苑が存続し、社会に貢献できる人材を育てる学校であり続けることを見据えています。その新たな歩みを踏み出すため、2018年度からの5年間を「改革の5年間」として重要な期間と位置付け、時代に応じた改革に着手してきました。

2021年度は、学苑の「中期経営計画」の4つの改革の柱である「教育改革」「業務・働き方改革」「財務基盤の強化」「経営計画の実行体制の整備」に基づいた重点事業を大きく発展させていく年となります。

グローバル化や急速なAI/ICT技術革新等による超スマート社会「Society5.0」を展望し、各学校長のリーダーシップの下、教育改革を着実に実行し、持続可能な社会づくりへの責任を果たしていきます。学生・生徒等、および卒業生やその保護者等、多くのステークホルダーのための明星学苑として存在し続けることができるよう努めてまいりますので、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

尚、コロナ禍が続く社会において、今後も学苑の危機管理の基本方針に則り、学生及び教職員の生命及び身体の安全確保を最優先とし、可能な限り学生の学修の機会を保障していくよう努めて参ります。

Ⅰ. 明星学苑の建学の精神とその実現

本学苑は、建学の精神「和の精神のもと、世界に貢献する人を育成する」ことをもって、持続可能な社会づくりに寄与することをその使命とします。

- 教育方針
 - 1. 人格接触による手塩にかける教育
 - 2. 凝念を通じて心の力を鍛える教育
 - 3. 実践躬行の体験教育

- 校訓 健康、真面目、努力

- 各校の教育目標・教育内容・教育方法

○ 明星大学 自己実現を目指し社会貢献ができる人の育成

- ・ 現代社会に生きるものとして必要不可欠な基本的知識と技能の習得
- ・ 幅広い教養を身につけた自立する市民の育成
- ・ 心と体の健康管理の教育
- ・ 高度専門職業人及び幅広い職業人の育成
- ・ 体験教育を通して生涯に亘る学習意欲を獲得し、自らの歴史を綴ることができるようにする教育

○ 明星中学校・高等学校 自律心を持った自立した人の育成

- ・ 凝念・心力歌を通じて心の成長に重きをおいた教育
- ・ 21世紀社会での活躍力を身につける体験的・探究的学習活動を通しての教育
- ・ 「見える学力」と「見えない学力」をクロスさせる教育
- ・ SDGsを積極的に推進し、持続可能な社会作りに貢献できる教育
- ・ 学苑設置校（幼・小・大）との連携したグローバル教育と高度情報化（AI）教育
- ・ 新しい時代に即応するICTツール等を利活用した教育

○ 明星小学校 正直なよい子の育成

- ・ 凝念教育
- ・ 「賢さ」と「豊かさ」を兼ね備えた、輝きをもった子どもを育成する教育
- ・ 「主体的・対話的で深い学び」の実現を通して、資質・能力（知識・技能、思考力・判断力・思考力、学びに向かう力・人間性等）の育成を図る教育
- ・ 体験学習を通して豊かな心を育てる教育（心の教育、道徳・躰、きめ細かな生活指導等）

- ・五正道（正しく視る、正しく聴く、正しく考える、正しく言う、正しく行う）の
実践

○ **明星幼稚園** よい子の育成

- ・「みなしずか」（凝念）の実践
- ・一人ひとりを大切にされた保育
- ・体験的活動を通して学ぶ基礎的知識の習得
- ・年齢に応じた基本的生活習慣の確立
- ・総合学園の特色を生かした保育

II. 明星学苑全体の事業計画の概要

1. 学苑全体の基本方針（学苑中期経営計画より）

学苑が、「教育の明星」に相応しい教育を行うための不断の教育改革を推進していくため、その基本的条件となる安定的・永続的な経営基盤の強化に向けて、次の基本方針を掲げます。

■ 明星学苑のビジョン -5年後のあるべき姿-

学苑は、5年後のあるべき姿として、次のことをビジョンとして掲げています。

『学生、生徒、児童、園児の可能性を限りなく広げ、どのような時代においても自己実現を目指し、生き抜くための豊かな教養と人間力を涵養する「教育の明星」を具現化し、学苑の社会的評価を向上させる。』

■ 中期経営計画の4つの柱

中期経営計画においては、2018年度からの5年間を「改革の5年間」と位置付け、次のことを4つの柱としています。

- (1) 「教育の明星」の具現化 -各設置校における教育内容の質的向上と質保証の徹底を図り、特色ある教育内容を社会に発信し、教育界をリードしていくための改革
- (2) 業務改革と働き方改革の推進 -現在行っている業務全般を見直すとともに、教職員の力を最大限発揮し、変化に即応できる強い組織となるための変革
- (3) 財務基盤の強化 -明星学苑の持続的な発展に向けて、環境の変化に柔軟に対応できる財務構造を作っていくための収支の均衡
- (4) 経営計画の実行体制の整備 -教育改革及び業務改革、収支の改善を着実に実行していくための経営改革

2. 重点事業項目

中期経営計画は、4つの柱に基づき、重点事業項目を次のとおりとしています。

■ 重点事業(1) 《教育改革》

○ 明星大学の教育改革

明星大学は、2010年度に「教育の明星大学」を掲げ、教育改革を先導する大学としての決意表明以降、様々な教育改革が推し進められ、今日に至るまで少なからず成果を挙げてきました。大学は、この方針をもって改革を更に進めていくこととなります。それらの主だったものは以下の通りです。

- ① 全学的な教学運営体制の整備
- ② 授業の改革
- ③ 学生の意見への対応の整備
- ④ 英語教育体制の整備
- ⑤ 府中校との教育連携
- ⑥ 大学院の活性化
- ⑦ 通信教育部における今後の体制
- ⑧ 次なる事業運営目標<MI21 プロジェクト（第2期）>の推進
- ⑨ 改組改編の検討
- ⑩ 大学管理者選考の在り方についての改革

○ 府中校の教育改革（一貫教育体制の推進と教育内容の質的転換）

府中校は、同一校地に幼稚園、小学校、中学校、高等学校があり、それらの各設置校を貫く学苑の教育理念を一体的に実現していく条件が整っています。学苑の教育理念は、建学の精神とそれに基づく府中校各設置校の教育目標及びそれを具現化していくための教育方法である「実践躬行の体験教育」により構成されています。府中校の教育改革の基本方針は、この学苑の教育理念を貫く「実践躬行の体験教育」と「一貫教育」の質的充実をもって行うこととなります。社会の要請や状況に鑑み、具体的には、以下の通りとします。

- ① わかる授業・面白い授業・学力がつく授業への授業改革
- ② 一貫教育体制の深化による幼小中高大内部進学継続への積極的取組み
- ③ 高度情報化・グローバル化及び COVID19 後の新しい時代に対応する教育
- ④ 語学教育・理数教育・ICT 教育の充実
- ⑤ SDGs に重きをおいた教育活動
- ⑥ 多様な進路進学対応（主として大学）

■ 重点事業（2） 《業務・働き方改革》

学苑がこれまでの経営の中である程度把握している働き方の問題に関する根本的原因について、想定されるものは、「業務の非効率」と「人事制度の課題」です。

「業務の非効率」については、既存の業務フローや組織構造、学内手続きやルールを全面的に見直し、部署統合をはじめ、各部の業務プロセス上の重複やルーティン業務の見直しを継続的に行い、各部の生産性向上を目指します。

「人事制度の課題」については、情報技術の高度化やグローバル社会の進展等、社会環境が急速に変化する中、教職員一人ひとりが時代の変化を敏感に察知し、高い意識をもっ

て不断の教育改革・経営改革に取り組んでいく必要があります。2021年度は、事務職員に新たな勤務体制を導入し、ワーク・ライフ・バランスの確立、限られた時間で業務の効率性を高める働き方改革（既存業務の見直し、改善活動の促進）を促進します。

- ① 業務プロセスの見直しと効果的・効率的な業務改革
- ② IT化の促進及びAI/IoTの活用
- ③ 人事制度の改訂・導入

■ 重点事業（3） 《財務基盤の強化》

学苑が、教育の質を更に高めていくためには、その活動に中心的に係わる教職員の雇用の維持と安定化が不可欠であり、教育研究活動を行う上での基礎的条件である施設・設備の維持と更新も不可欠です。また、新たな教育事業の展開のための投資的資金を保持していくことも必要であり、更に急激な経営環境の悪化が生じた時にも、それに耐え得る資金の保持も必要です。

したがって、学苑は、適切に持つべき資金と、収支の状況を可能な限り正確に予測しながら、中期財務計画を立てていくことがその基本方針となります。とりわけ、学生生徒等納付金と補助金の収入がほぼ上限である現実に対し、これまでの収支構造を見直し、支出を効果的に抑えていくことを重視しスクラップアンドビルドを進め、次の投資戦略に備えるために、実質的なPDCAサイクルを構築します。

- ① 学苑の基本方針に基づく収入・支出計画
- ② 施設・設備の計画的更新
- ③ フリーキャッシュ（非拘束性資金）及び短期的・長期的更新資産の維持

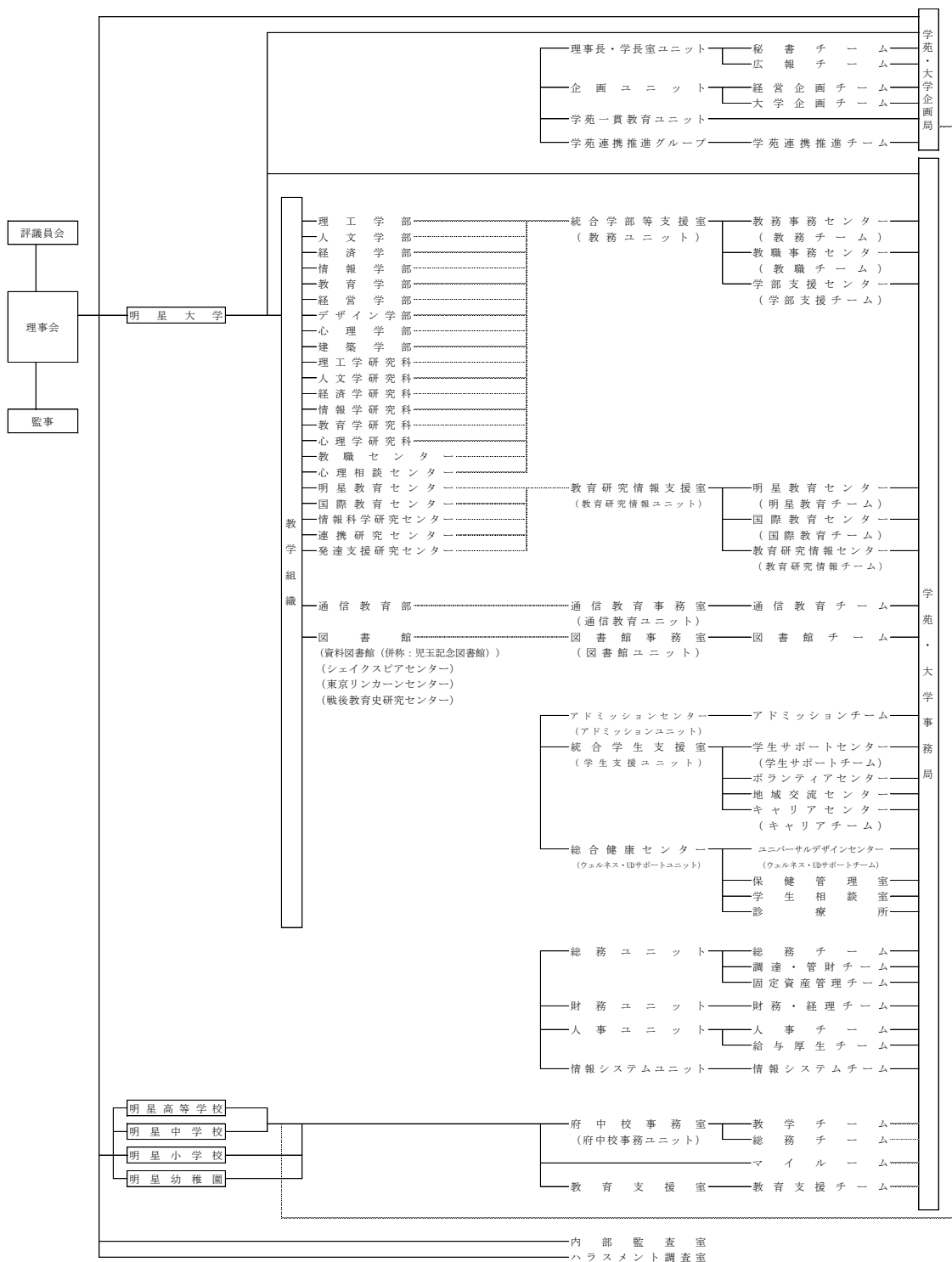
■ 重点事業（4） 《経営計画の実行体制の整備》

学苑の存続と発展のための計画の一環である中期経営計画の下、多くの課題を着実に解決していくことが経営陣はもとより、全教職員にも課せられています。変化の激しい社会に対応できる組織への再構築を目指し、事務組織については、2019年度に法人本部の廃止、2020年度に「ユニット制」の導入による柔軟で効率的な組織の再構築（大ぐくり化）を行いました。急激な状況変化に即応するためにより一層の迅速な意思決定と施策の立案・実行が必要であり、それを可能にする運営体制の構築が急務となっています。学苑では「教学と経営」、「教学部門（フロントオフィス）と管理部門（バックオフィス）」のさらなる一体化、そして学苑および設置校の独自性をいち早く打ち出す教育改革の実現に向けた業務執行体制の強化を図っていきます。学苑・大学企画部門のスタッフ機能の充実と学苑・大学事務部門の一体化・強靱化を目的として、現行の体制を再整備し、学苑と各設置校の状況共有を図り、経営全般を含めた全体最適な意思決定の実現とその推進をサポート

トしていきます。

- ① 中期経営計画の実施体制の整備と推進
- ② IR 部門の強化と各部内との連携
- ③ 業務プロセスの見直し及び課題解決作業の優先順位付けと実行
- ④ 組織の壁を越えた改革作業組織（task force）の柔軟な編成と推進

3. 学校法人明星学苑 組織機構図 (2021年4月)



業務改革推進グループ：2020年度に理事長の直下に設置した「業務改革推進グループ」において、業務プロセスの改革、業務のIT化等の業務

改革を推進します。尚、「業務改革推進グループ」は2021年度末までの時限的組織です。

Ⅲ. 当該年度の各部門の事業計画の概要

1. 明星大学・大学院

(1) 基本方針

明星大学は、設置者である学校法人明星学苑の建学の精神に基づき、学苑の高等教育機関として「自己実現を目指し、社会貢献ができる人の育成」を教育目標としています。この教育目標を達成するために、「教育の明星大学～実践躬行の精神を身につけ、社会で活躍し、未来を拓く学生を育てる～」をビジョンとして掲げ、学部学科においては「学士力」の獲得、大学院においては研究者や高度専門職業人の養成を柱に、以下の教育方針に基づき教育研究活動を展開します。

- 現代社会に生きるものとして必要不可欠な基本的知識と技能の習得
- 幅広い教養を身につけた自立する市民の育成
- 心と体の健康管理の教育
- 高度専門職業人及び幅広い職業人の育成
- 体験教育を通して生涯に亘る学習意欲を獲得し、自らの歴史を綴ることができるようにする教育

情報化やグローバル化、AIの進化といった急激な社会変化、更には今般のコロナ禍による大学を取り巻く環境変化が続く状況においても、時代や社会の変化及び要請に柔軟に応え得る人材を養成する大学であり続けるため、この教育方針の下で教育の在り方を不断に見つめ直し教育改革を推進していきます。

本学では、2017年度から2022年度までを中期事業計画期間と定め「多摩地域において人材養成・知の拠点として不可欠な大学になる」ことを目標として、「教育の明星大学」を具現化する教育及び研究、社会貢献に係る諸事業を展開しています。

また、2020年6月に学長が発信した「明星大学教育新構想」を実現し、「学修者本位」の教育の推進及び充実を図ります。

(2) 明星大学中期事業計画

- ① 多摩地域における連携強化と大学知財の積極的提供
- ② 明星大学の知名度向上を目的とした教育研究成果の積極的発信
- ③ 総合学苑としての強みを活かすための取り組みの推進
- ④ 保護者や卒業生から信頼される大学づくりの推進
- ⑤ 学生が社会から評価される出口戦略の積極的展開

- ⑥ 目的意識の高い学生の確保に向けた入口戦略の積極的展開
- ⑦ 「教育の明星大学」の具現化に向けた教育改革の推進
- ⑧ 学士課程教育を支える研究活動の推進
- ⑨ 有望な学生を更に伸ばし、社会に輩出する育成事業の推進
- ⑩ 内部質保証に係る検討体制の確立と活動の推進
- ⑪ ビジョン達成に向けた教育研究組織・管理運営体制の抜本的改革
- ⑫ 安定的な財政基盤を維持するための戦略的な財務計画の策定と推進

(3) 「明星大学教育新構想」(2020年6月学長発信)

志

- ・明星大学は、明星学苑第二世紀を前に「建学の精神」を改めて実践躬行し、明星だからできる、明星でなければできない教育的特色を打ち出し、本学の存在理由を世に知らしめます。
- ・明星大学は、柔軟性とぶれない芯を併せ持つ「時代の変化に強い人間・大学」を教職学が共創する教育機関として発展します。
- ・この大志を遂げるために、新たな時代の社会理念 Do It With Others が求める【学び続ける力】と【協働する知性】を兼備した人間を育成します。

方針

- ・理工系・人社系・融合系9学部12学科がワンキャンパスに集結するという稀有の利点を活かし、また学外からも学ぶ分野交差型のクロッシング教育を推進します。
- ・学生一人ひとりにとっての学びの価値や学び甲斐、モチベーションを重視する「学修者本位」を教学の中心理念とし、その実践の場のひとつとしてeポートフォリオを整備して、生涯にわたる【学び続ける力】の基盤とします。
- ・学修にデジタル技術を活用する教育テクノロジー (EdTech) の標準装備化を進めます。

施策

- ・受験生・在学生と本学教育のマッチング相性・組み合わせの向上を教育改革の主眼とします。
- ・【学び続ける力】と【協働する知性】を兼備した人間を育成するために、専門教育「セントラル」と垣根を越える学習「クロッシング」で構成されるカリキュラムを打ち出し、本学の教育的特色を明示します。
- ・アフター／ウィズコロナ低移動時代を前提に、新たなグローバル化教育を進めます。

目標

- ・教育改革を進め、第3期認証評価2024年受審が大学基準として求める「内部質保証」および「教育課程・学習成果」に対応する教学マネジメントを進めるとともに、わが国高等教育界において個性の際立つ「教育の明星大学」としての地歩を固めます。
- ・学生が自信と自尊心と協働力を持って社会に羽ばたくための学修理念と学修環境を用意します。
- ・到達目標を可視化し、教職員が我が事として推進しがいのある改革を断行して、大学間大競争時代の勝者になります。

○ 上記の「明星大学教育新構想」のもと、柔軟性とぶれない芯を併せ持つ「時代の変化に強い人間・大学」となり、【学び続ける力】と【協働する知性】を兼備した人の育成のため、「交わり広がる」学びの充実及び環境整備を図ります。

○ 本学が21世紀社会を前進させる高等教育機関であり続け、学生・卒業生に対し、教育面においてライフロングで伴走し続けるため、DX(デジタルトランスフォーメーション、デジタル変革)を推進します。

(4) 重点事業

① 学修者本位の教育改革

21世紀社会において誰にも必要とされる【学び続ける力】と【協働する知性】の伸長を主要目的とする教育改革を推進します。また、9学部12学科がワンキャンパスに集結しているという他大学にまれな本学の好条件を活かし、学外での体験学習も含めた、垣根を越えていく学修の型「クロッシング」(交わり)を教育課程に組み込み、「教育の明星大学」の際立った個性として打ち出します。

② DX推進による新時代への人材育成

デジタル化からデジタルデータ活用のDX時代へと、社会は急速に変化しており、学生は21世紀DX社会が求める知識や技能、適応力を身につける必要があります。その力を涵養するため、「明星大学DX教育」を新たに検討し推進を図ります。

③ 理工系の変革

新たな学問の進展と時代の変化に対応した有為な人材養成を行い社会に輩出するため、大学創設時より本学を支えている理工学部の改革に取り組みます。理工学部改組改編検討タスクフォースを立ち上げ、学修者本位の教育、クロッシングを重視した教育課程の編成等により、理工系の専門性と幅広い教養をもって21世紀グローバル社会の課題に

対峙でき、多様な価値を創造できる人材育成に向けた教育内容の検討及び体制構築を図ります。

④ 教学マネジメントシステムの充実

社会から本学に対する信頼性の担保及び学修者本位の教育の質の向上のため、3つのポリシーに基づく教育の実質化を軸に、学修成果の把握・可視化等を踏まえた本学独自の教学マネジメントシステムにより、内部質保証システムの構築・運用及び自己点検・評価活動、次期認証評価へ向けた取り組みを促進します。

⑤ 明星大学中期事業計画の再構築

本学は2017年度に策定した中期事業計画に基づき、教育・研究・社会貢献に係る様々な事業を展開してきましたが、昨今の社会変化や今般のコロナ禍による環境の変化は、策定時点では想定しえなかった規模とスピードで進んでおり、これらに対応し得る新たな事業計画が必要となります。この状況認識のもと、本学がこの環境変化を乗り越え、持続的成長を実現するため、これまでの中期事業計画の再構築を図ります。

今後もその時代や社会の変化、本学の特色を踏まえながら事業を推進していきます。

2. 府中校

府中校においては、次の基本方針に基づき、各設置校の方針及び計画の策定を行います。

(1) 府中校一貫教育体制の確立

幼稚園から高等学校までを擁する府中校において、教育の効果がより高められる一貫教育体制を強化・構築します。「和の精神のもと、世界に貢献する人を育成する」という建学の精神に基づき、現代のグローバル化の進行や社会の変化に柔軟に対応できる力を備えていくための基礎力を身に付けた生徒、児童等を育成するため、特に英語及び理数教育における一貫教育体制の整備・確立を目指します。

(2) 教育成果の向上

中学校・高等学校においては、2016年度に設置したMGSクラス（Meisei Global Science：難関大学を目指す特設クラス）により大学合格実績が向上しました。高等学校では2020年度より、教育内容をさらに充実させるべく第2次教育イノベーションへと動き、MGSクラスと本科クラスをそれぞれコース制にし、時代の変化に対応するコンセプト・教育システムを確立しようとしています。正課授業の充実はもとより、体験教育を具現化する探究学習においてはSDGs中心の学びが進化しました。また、語学教育・グローバル教育・ICT教育に重きをおきます。さらに、2021年度は教育イノベーションセカンドフェーズとして、中高一貫教育の再構築に入り、6年間一貫の特別選抜

クラス、4年後に MGS を目指す総合選抜クラスとへ名称変更し、シラバス・カリキュラム・探究学習等を大きく進化させます。

小学校においては、2016 年度からの英語の授業時間数の増加に伴い、「聞く、話す、読む、書く」の 4 技能の成長段階に応じた学力の基盤づくりのための指導を充実させ、英語の基礎力を身に付けた上での中学校教育との連携をより一層進めていきます。

また、英語教育の強化に加え、理数教育の強化、先進的なプログラミング教育の充実を図り、教育力を向上していきます。

■ 明星中学校・高等学校

(1) 基本方針

明星中学校・高等学校では、学苑の建学の精神に基づき、「自律心を持った自立した人の育成」を教育目標としています。また、教育ビジョンを「グローバル時代に対応した『活躍力』を一人ひとりに身につけさせる」としており、これらを達成するためのあるべき姿を以下のとおり掲げています。

- ① めざす学校像 「生徒が通いたい学校・保護者が通わせたい学校」
- ② めざす生徒像 「何事にも挑戦し、自分の可能性を試す」
- ③ めざす教職員像「生徒一人ひとりの能力・意欲・適性を見据えた学習指導ができる」

(2) 事業計画

2021 年度は、以下の教育改革に繋がる事業を推進・展開することで、中学校・高等学校の教育目標・教育方針の実現を図ります。

- ① 教育改革のさらなる推進によるコアコンピタンスの価値向上
- ② 業務改革・働き方改革を通じた組織力の強化
- ③ 上記 1 と 2 を効果的に実行するための人と組織の強化
- ④ 大学進学実績向上への戦略と戦術の深化
- ⑤ 入学生増につながる中高一貫教育の再構築
- ⑥ 明星大学との高大連携による明星大学進学者の増加
- ⑦ 体験教育・グローバル教育・ICT 教育・理数教育の充実
- ⑧ 優秀な生徒及び安定的生徒数確保に向けた入学広報戦略の深化
- ⑨ 学校全体としての SDGs 推進
- ⑩ 質の高い学校教育活動を目指した COVID-19 への対応

(3) 重点事業

① 教育イノベーション推進

- ・ 時代の変化に対応でき、持続可能な世界作りに貢献できるカリキュラム・体験教育を実践することで、生徒・保護者・地域から信頼される学校作りをします。
- ・ 正課授業・課外授業においてのアクティブ・ラーニングを推進し、リベラルアーツ、STEAM、SDGs への取組みを継続的に実践していきます。
- ・ 探求学習教材の研究、専門講師の招聘、体験型研修の実施、各種大会・コンテストへの参加、研修会・研究会への教師派遣などを実践します。

② 研修体制の充実

- ・ 進路進学実績を更に向上させ、生徒一人ひとりの成長を的確に支援できる優秀な教師と学校運営を目指した人と組織の成長に向けて、管理職研修、セグメント別研修、先進校視察、校内研修、外部研修会への参加を促進させます。
- ・ 生徒の成長と明星大学進学向上を目指し、アドミッションセンター・明星教育センター・各学部学科との高大連携プログラムを充実させます。

③ 大学進学実績の向上

- ・ MGS コースにスーパーMGS クラスを設置し最難関大学の合格実績向上への転換を図り、MGS を2年次より、GMARCH 大学進学を目標とし英語学習・グローバル体験に重点を置く MG クラス（明星グローバル）と理系国公立大学進学と理数教育に重点をおいた MS クラス（明星サイエンス）に進化させます。
- ・ 本科コースは明星大学内部進学を第1目標とし、基礎学力養成と高校生活の充実を図りながら総合型選抜、学校推薦型選抜に対応できる力を養成します。
- ・ 中高一貫コースに6年間クラス替えをしない特別選抜クラスを編成し、高度人材育成・難関大合格を目指します。

④ グローバル教育の充実

- ・ 英語教育×グローバル教育をより発展させるため、英語力・英語コミュニケーション力・英語運用能力アップのために、オンラインイングリッシュやeラーニング及びグローバルコンピテンスプログラム等を導入します。
- ・ 英語教育×グローバル教育の指標として日本英語検定の到達目標と具体的取組を明確にします。また、COVID-19 禍においても有効なプログラムとツールを駆使して目的達成の努力をします。

⑤ ICT の活用と推進

- ・ 整備されてきた ICT 教育環境のインフラを最大限に活用し、教員・生徒双方の活

用力向上に向けての取り組みを充実させ、探究学習・プログラミングや AI 学習に挑戦します。

⑥ 優秀な入学生確保

- ・ 給付型奨学金を充実させ優秀な生徒を確保し、大学進学実績向上の布石を打ちます。

⑦ SDGs 推進校として、学校全体の取組、学年別取組・生徒主体の取組を充実させ、内外での発表や活動を活発にします。

■ 明星小学校

(1) 基本方針

明星小学校では、学苑の建学の精神に基づき、「正直なよい子の育成」を教育目標としています。そこで、教育ビジョンとして、『賢さ』と『豊かさ』を兼ね備えた、輝きをもった子どもの育成」を掲げ、次の4つに焦点を当て、子どもたちの心が開き、学び、成長していく、さわやかな風が流れる学校を目指し、子どもたち、保護者、教職員一同がチームを組んで一緒に学校を創っていきます。

- ・ これからの社会に必要なグローバル力を育む「英語力」と「理数力」を重視した教育
- ・ これからの社会に必要なグローバル力を育む「先進的プログラミング教育」
- ・ 深い学びと豊かな心を育む五感を通して感動を体験する教育
- ・ 児童一人ひとりの資質・能力を育てる高い授業力の育成

(2) 事業計画

教育ビジョンの具現化に向けて、次の観点から教育活動を推進します。

① 教育力向上

ア. 新学習指導要領完全実施に伴い、指導計画と評価規準を見直したカリキュラムの構築と、これからの社会に必要なグローバル力を育む「英語力」と「理数力」を重視した教育プログラムの実践を図ります。

- ・ アクティブラーニングを重視した多彩な英語プログラム（学ぶプログラムと使うプログラム）で、学齢に応じた効果的な学習を図ります。また、英検対策プログラムで英検の卒業時取得を目指します。
- ・ 知的好奇心と論理的思考力を育てる理数プログラムを実施し、ゲームやパズルなどで数量や図形感覚を豊かにする AA 授業の定着を図ります。

- ・ 知的好奇心を刺激し学習への意欲につなげる低学年からの理科学習の充実を図ります。
 - ・ ICT教育、プログラミング教育への対応や体制の整備に向けて、ベネッセ、明星大学情報学部との連携を図り、先端プログラムを作成・実施します。
- イ. 深い学びと豊かな心を育む五感を通して感動を実感する体験教育を通して、高い教育力の実現を目指す「心が育つ感動ある」体験プログラムを実施します。
- ・ 心の働きを1点に集め、精神を集中させる「凝念」で、集中力を高めるとともに、心身の健康を育てます。
 - ・ 「くぬぎの時間（総合的な学習の時間）」や宿泊学習を含む体験学習などの多様な体験を通して、知的好奇心や自ら考え行動する『生きる力』を育むカリキュラムを実践します。
- ウ. 教師の授業力（授業観・教材研究力・学習指導力・人間性）を豊かなものとしていく様々な授業改革の推進を図ります。
- ・ 校内研究の主要教科を算数とし、授業研究を通して教師の授業力を鍛えます。
 - ・ 授業の公開や発信により、他者の授業を参観して協議する授業研究会、校内研修会の充実を図ります。
 - ・ IRセンターと連携を密にとりながら、CRT（教研式教育検査）、全国学力調査、保護者アンケート等のデータを分析し、教育改革に向けて速やかに対応策を打っていきます。

② 一貫教育の推進

子どもの力を最大限に伸ばす一貫教育の確立を目指します。

- ・ 「憧れが可能性を育てる」体験システムを確立・実施します。
- ・ 幼小連携教育カリキュラムで、幼小の接続を円滑に図ります。
- ・ 小中連携教育カリキュラムで、小中の接続を円滑に図ります。
- ・ 中学校教員による小学校での授業や小学校教員による幼稚園での授業を企画・実施することで教育の連携を図り、進学後の「中1ギャップ」「小1ギャップ」を防ぐ場を創ります。

③ 内部進学者の確保

ア. 幼・小・中の内部進学を高め、より教育効果の高い一貫教育体制を築いていきます。

- ・ 幼小進学スケジュールや小中進学スケジュールにあわせた保護者への情報発信を高めるために、幼小合同研修（12月・2月）の実施（園児・児童理解の向上、預かりの連携推進）のほかに、幼稚園の保護者向けの小学校教員による講演（「小学校入学に際して」など）を行っていきます。また、3年生以上の保護者への中

学校説明会の実施を中学校と連携し、中学校の教育の特色や魅力を伝えていきます。

- イ. 特色ある明星教育の発信に向けて、小中高生合同でのヤングアメリカンズへの参加、明星大学情報学部及び教育学部との合同企画（プログラミング講座、わくわくスタディ（算数）、算数祭り）など、大学との連携プログラムの充実を図り、保護者向けには教養講座を開講します。

(3) 重点事業

学苑の中期経営計画に基づいて立てた教育ビジョン「『賢さ』と『豊かさ』を兼ね備えた、輝きをもった子どもの育成」の新たな3年計画の1年目の年として、子どもたちの心が開き、学び、成長していく、さわやかな風が流れる学校を目指し、次のものを重点事業として行っていきます。

① 教育力向上

- ・ 教師の資質・授業力の向上を目指し、教師の授業力（授業観・教材研究力・学習指導力・人間性）を豊かなものとしていくため、授業研究会の強化、外部への発信（公開授業研究会）を行っていきます。
- ・ 教員の出版物発刊による外部への発信を行っていきます。
- ・ 2020年度からのGIGA構想（IC教育の充実：一人1台端末）に伴い、更なるICT環境を充実させ、プログラミング教育を「明星ブランド」の一つとして発信していきます。
- ・ ヤングアメリカンズ（5年生必修）、英語村（スタービレッジ）、レシテーションコンテスト等への参加を通して、児童だけでなく、教師の英語力、表現力の向上を図ります。

② 広報活動強化

- ・ 戦略的PR活動（HP、学校案内、インターネット、ステークホルダー等）を効果的に活用し、志願者の増加を図ります。
- ・ 受験情報の分析と対策をIRセンターと協力して的確に行い、広報活動を推進します。
- ・ 教師の授業力が一つのブランドになるように、公開授業、明星算数講座、体験授業、プレスクール等を通して、教師の授業力の質を発信していきます。

■ 明星幼稚園

(1) 基本方針

明星幼稚園では学苑の建学の精神に基づき、「元気なよい子の育成」を教育目標としています。幼稚園教育要領に沿った質の良い「遊び」を主体とした、園生活におけるアクティブラーニングを通し、考える力や基礎体力、社会性の基礎を養い、小学校就学後も自ら考え、様々な事象に興味関心を持って学んでいく力や生きる力、すなわち非認知能力育成を教育ビジョンに掲げています。

(2) 事業計画

① 就学に向けて

小学校就学に向けて、確かな学力につながる学びの芽生え、健康・基礎体力につながる「生活習慣・運動」を身に付け、社会生活における望ましい「態度や習慣」、「他者への思いやり」及び「協同の精神」の芽生えを促します。

② 一貫教育の推進

幼小連携事業を拡大し、幼小合同研修や在園児対象特別課外授業、就学前教育などを計画・実施し、明星小学校内部進学率向上を目指します。幼稚園入園前の保護者に対しても内部進学をアピールし、一貫校としての風土を醸成していきます。また、内部進学者を含む卒園児全員がスムーズな小学校生活をスタートできるよう支援していきます。

③ 教育目標達成に向けて

時代に合った幼児理解と指導力および保護者へ子育て支援機関としての役割向上を目指し、保護者の高い満足度を維持するために、教員対象の内外の研修を充実させます。

- ・ ルーブリック評価を実施し卒園までの3年間の成長を可視化し、具体的な教育活動やカリキュラム・マネジメントへ生かします。
- ・ ルーブリック評価、日々の保育記録（写真等）を活用した園児の個人成長記録を可視化し、保護者と共有及びカリキュラム・マネジメントに活かします。これまでの個人成長記録「すくすく」の見直しも行っていきます。
- ・ 教員研修により各教員が課題意識を持ち、教育力向上を目指します。
- ・ 入園する前段階から内部進学を意識した層を確保し、入園児安定的確保を目指します。

④ 心の教育

- ・ 園児に小動物（熱帯魚、小鳥等）を身近に感じさせることで、興味を持たせ心の安定を図ります。
- ・ 心の成長を促すために各担任や園長講話では園児に分かりやすく命の大切さ、社

会生活、自然現象、数の知識等を伝え、保護者に対して幼児期に非認知能力を育成する重要性を説いていきます。

- ・ 善悪の判断の成長を促すべく、全体には絵本や講和を通して、各園児とは信頼関係を築いていきます。

⑤ 子育て支援

- ・ 子育て支援として、未就園児対象「ひよこクラス」、1歳児対象「びよびよクラスファースト」をさらに充実させます。
- ・ 2歳児プレスクール「びよびよクラスセカンド」を継続して行い、次年度入園に向けての準備をしていきます。

⑥ 教育現場における園児、教職員を含む関係者のリスク管理及び個人情報の管理体制強化

- ・ 危機管理マニュアルに基づいた訓練・研修を継続実施するとともに、個人情報保護についての理解を深め、その留意事項を日常業務に生かしていきます。

(3) 重点事業

① 一貫教育推進

明星小学校への内部進学率 40%を目指し、幼小教員間の垣根を超えた協業を継続します。

② 教育力向上

独自のルーブリックの評価を見直し、その活用により園児の成長記録を可視化し、カリキュラム・マネジメントに活かします。

IV. 2021 年度予算の概要

学苑の適切な収支バランスと安定は、社会環境の変化に対応するため、そして不断の教育改革に必要であり、将来に亘る学苑の持続的成長を促進し、学苑の教育・研究・社会貢献活動の諸条件を整備することにつながります。本学苑は、現在の厳しい財務状況の改善に向け、中長期的な財政計画の策定と実行及び収支構造の見直し、経営改善に向けた予算策定と執行を行い、財務基盤の強化を図ります。

○ 資金収支について

資金収支予算書については、別表1のとおりです。

学生生徒等納付金収入は12,432百万円を計上し、前年度予算と比較して10百万円減となっています。補助金収入は2,401百万円を計上し、前年度予算比355百万円増となっています。

人件費支出については9,282百万円を計上し、前年度予算比281百万円減となり、そのうち教職員等人件費支出については前年度予算比97百万円の減、退職金支出については前年度予算比185百万円の減となりました。

教育研究経費支出は3,982百万円を計上し、前年度予算比120百万円増となり、管理経費支出は1,188百万円を計上し、前年度予算比49百万円減となりました。

施設関係支出は366百万円を計上し、前年度予算比48百万円減となり、設備関係支出は481百万円を計上し、前年度予算比184百万円増となりました。

資産運用支出は2,573百万円を計上し、前年予算比3,671百万円減となりました。

この結果、翌年度繰越支払資金は4,092百万円となり、前年度予算比1,085百万円減となりました。

○ 事業活動収支について

事業活動収支予算書については、別表2のとおりです。

教育活動収入については15,684百万円を計上し、前年度予算と比較して196百万円増となり、教育活動支出については16,957百万円を計上し、前年度予算比277百万円減となりました。

教育活動外収入については303百万円を計上し、前年度予算比11百万円増となり、教育活動外支出の計上はありません。

教育活動収支差額と教育活動外収支差額を合算した経常収支差額については、970百万円の支出超過となり、前年度予算比484百万円の改善となりました。

経常収支差額に、特別収支差額及び予備費（2021年度は計上なし）を加えた基本金組入前当年度収支差額は、1,130百万円の支出超過となり、そこから基本金組入額（2021年度は計上なし）を差し引いた当年度収支差額は1,130百万円の支出超過となりました。当年度収支差額と前年度繰越収支差額を合計した翌年度繰越収支差額は、28,047百万円の支出超過となりました。

参考資料

別表1 資金収支予算書

2021年4月1日から2022年3月31日まで

(単位:百万円)

収入の部			
科目	当年度予算	前年度予算	増減(▲)
学生生徒等納付金収入	12,432	12,442	▲ 10
手数料収入	424	444	▲ 20
寄付金収入	68	28	40
補助金収入	2,401	2,046	355
資産売却収入	897	1,217	▲ 320
付随事業・収益事業収入	156	214	▲ 58
受取利息・配当金収入	303	292	11
雑収入	243	374	▲ 130
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	2,102	2,155	▲ 53
その他の収入	337	387	▲ 50
資金収入調整勘定	▲ 2,353	▲ 2,729	376
前年度繰越支払資金	5,177	9,828	▲ 4,651
収入の部合計	22,187	26,698	▲ 4,511

支出の部			
科目	当年度予算	前年度予算	増減(▲)
人件費支出	9,282	9,563	▲ 281
（教職員等人件費支出）	9,116	9,213	▲ 97
（退職金支出）	166	351	▲ 185
教育研究経費支出	3,982	3,862	120
管理経費支出	1,188	1,237	▲ 49
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	366	414	▲ 48
設備関係支出	481	297	184
資産運用支出	2,573	6,244	▲ 3,671
その他の支出	1,219	1,064	155
〔予備費〕	0	0	0
資金支出調整勘定	▲ 996	▲ 1,161	165
翌年度繰越支払資金	4,092	5,177	▲ 1,085
支出の部合計	22,187	26,698	▲ 4,511

※百万円未満四捨五入のため一部端数に差異が生じている。

別表2 事業活動収支予算書

2021年4月1日から2022年3月31日まで

(単位:百万円)

科目				
		当年度予算	前年度予算	増減(▲)
教育活動収入	学生生徒等納付金	12,432	12,442	▲ 10
	手数料	424	444	▲ 20
	寄付金	69	30	39
	経常費等補助金	2,360	1,984	375
	付随事業収入	156	214	▲ 58
	雑収入	243	374	▲ 130
	教育活動収入計	15,684	15,488	196
	人件費	9,356	9,607	▲ 251
	教育研究経費	5,943	5,886	57
	管理経費	1,659	1,742	▲ 83
徴収不能額等	0	0	0	
教育活動支出計	16,957	17,234	▲ 277	
教育活動収支差額	▲ 1,274	▲ 1,747	473	
教育活動外収入	受取利息・配当金	303	292	11
	その他の教育活動外収入	0	0	0
	教育活動外収入計	303	292	11
	借入金等利息	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計	0	0	0	
教育活動外収支差額	303	292	11	
経常収支差額	▲ 970	▲ 1,454	484	
特別収入	資産売却差額	0	20	▲ 20
	その他の特別収入	58	82	▲ 25
	特別収入計	58	102	▲ 45
	資産処分差額	217	3	214
	その他の特別支出	0	0	0
特別支出計	217	3	214	
特別収支差額	▲ 160	99	▲ 259	
〔予備費〕	0	0	0	
基本金組入前当年度収支差額	▲ 1,130	▲ 1,355	225	
基本金組入額	0	▲ 687	687	
当年度収支差額	▲ 1,130	▲ 2,043	913	
前年度繰越収支差額	▲ 27,038	▲ 24,995	▲ 2,043	
基本金取崩額	121	0	121	
翌年度繰越収支差額	▲ 28,047	▲ 27,038	▲ 1,009	
(参考)				
事業活動収入計	16,045	15,882	162	
事業活動支出計	17,175	17,238	▲ 63	

※百万円未満四捨五入のため一部端数に差異が生じている。